



Juntos!!中南米対日理解促進プログラム
オンライン訪日プログラム（テーマ：海洋保全）の記録

1. 概要

【目的】過去に Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラムに参加した同窓生が、日本の海洋保全に関連する取組を学ぶことで、テーマへの関心と日本への理解を深め、各国での日本の先端技術の活用を検討する契機とすることを主目的に実施しました。

【参加者】Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラムの同窓生（2015 年度～2021 年度の参加者）（アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、コスタリカ、トリニダード・トバゴ、ホンジュラス、パナマ、パラグアイ、ペルー、メキシコ、ベネズエラの大学生・大学院生、社会人）20 名

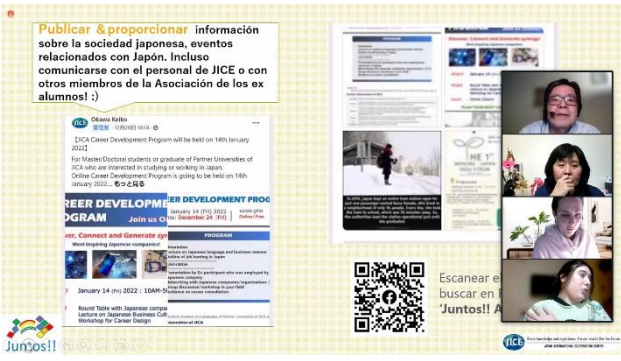
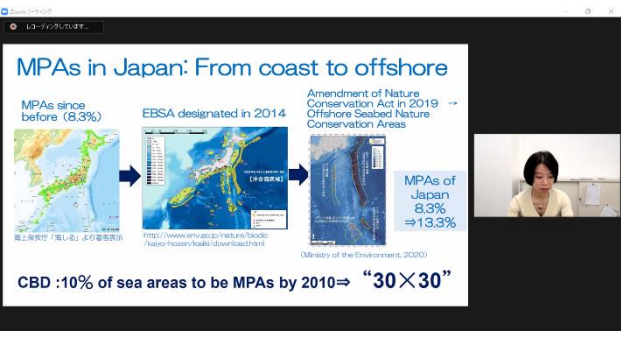
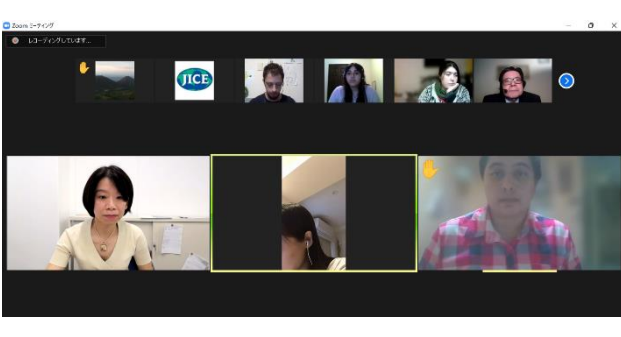
【日程】

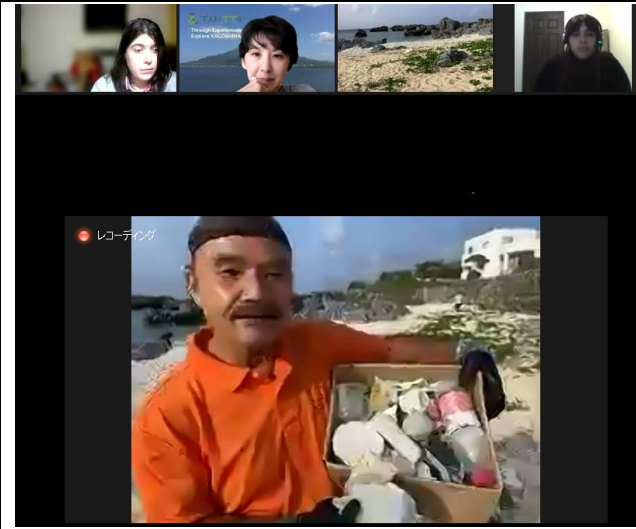
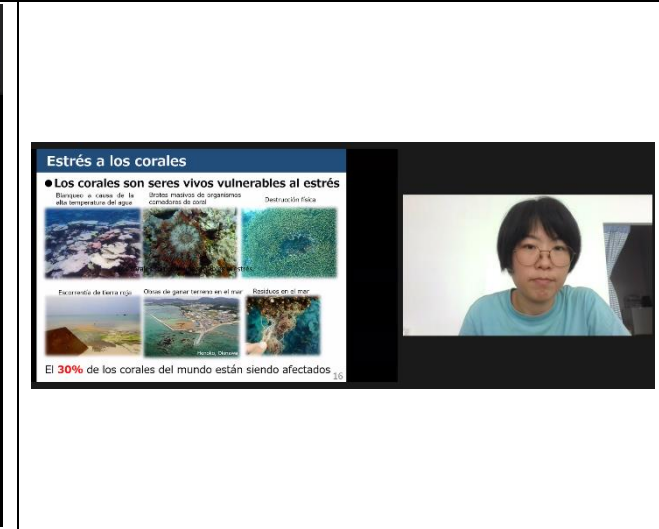
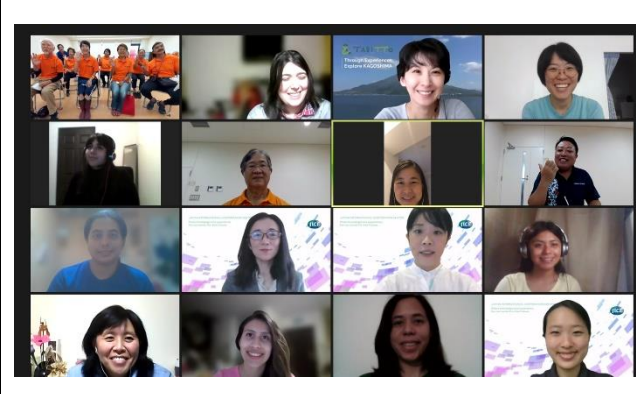
日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応 (参加人数)
1 日目 2022 年 10 月 11 日	【オリエンテーション】【ワークショップ】 ① 挨拶 ② Juntos!! プログラムの概要説明 ③ グループ別プログラム（自己紹介と担当 決め）4 グループ ④ 記念撮影	オリエンテーションでは、本プログラムの目的、参加者の役割・ミッション等の概要説明を聴講しました。グループ別プログラムでは、各グループで自己紹介を行った後、最終日の報告会での発表内容に盛り込む情報の確認とそれぞれの役割分担について話し合いました。（14 名）
2 日目 2022 年 10 月 12 日 静岡県	【テーマ関連講義・質疑応答】 「海洋の保全と持続的な利用」 講師：東海大学海洋学部 教授 脇田 和美 氏 ① 海洋保全と海洋の持続的な利用における日本の政策や取組みの講義・動画 ② 質疑応答 ③ 報告会の発表準備（希望者制）	海洋汚染の大きな原因である河川の排水流入に対する懸念はどの国でも高いことから、参加者は熱心に聴講していました。質疑応答では、生活排水や産業排水に対する日本の処理対策について、カーボンニュートラルの取り組みに対して企業の協約義務はどの程度高いものかを問う質問がありました。（16 名）

3 日目 2022 年 10 月 13 日 鹿 児 島 県 大 島 郡	【視察・講義・意見交換・質疑応答】 鹿児島県大島郡与論島 ① 視察 海謝美による海岸清掃活動の生中継による紹介 ガイド：合同会社 BIROU (TABITTO Travel Kagoshima)中條 佳奈子 氏 ② テーマ関連講義 「海謝美による海洋ごみについて」 講師：ボランティア団体「海謝美（うんじゃみ）」^(注1) 代表 阿多 尚志氏ほか ボランティア団体「海謝美」 ③ テーマ関連講義 「与論島における海洋プラスチックごみの対応について」 講師：与論島役場環境課 係長 光 俊樹 氏 与論島役場環境課 係長 ④ テーマ関連講義 「与論島の海のサンゴ礁の現状紹介」 講師：NPO 法人海の再生ネットワーク よろん 事務局長 池田 香菜氏 ⑤ 質疑応答 ⑥ 報告会の発表準備（希望者制） ^(注2) 海謝美（うんじゃみ）：与論町の住民有志で作る海岸清掃のボランティア団体	与論島で、「島の環境を守る」という共通の目的とともに活動している自治体、ボランティア団体、NPO 法人の取り組みに参加者は非常に興味を持って聴講していました。「島内で処理できないごみの処理方法」「収集したごみを燃やしたときに発生するガスの再利用の有無」「漂着ごみを分別する種類の数」「リサイクル・再利用に回されるごみの割合」など、専門的な観点での質問が多数ありました。（13 名）
4 日目 2022 年 10 月 14 日	【ワークショップ】【報告会】 ① グループディスカッション テーマ ・プログラム参加前のテーマに関する知識や活動（海洋保全の事前知識や個人的な活動知見の有無） ・プログラム中の学びや発見（日本及び日本人についての新たな発見） ・Juntos!! 同窓生として、学んだことを元にグループで何ができること ・プログラム中に作ったグループネットワークを活用して経験を生かす方法	ワークショップではプログラムでの発見や学びについて、また学び生かして自身ができる今後の活動を考えて共有しました。 報告会では、テーマに沿ってそれぞれのグループが発表しました。（参照 P5、報告会での参加者の発表）講評者からは、参加者の着眼点や今後の活動案にねぎらいと応援のメッセージがありました。（11 名）

	について ② グループ発表（4グループ） ③ 講評 東海大学海洋学部 教授 脇田 和美氏 ④ 記念撮影	
--	---	--

2. 記録写真

	
2022 年 10 月 11 日【オリエンテーション】	2022 年 10 月 11 日【オリエンテーション】グループ別プログラム
	
2022 年 10 月 12 日【テーマ関連講義・質疑応答】「海洋の保全と持続的な利用」	2022 年 10 月 12 日【テーマ関連講義・質疑応答】質疑応答の様子

	
2022 年 10 月 13 日【視察】ボランティア団体による与論島海岸の清掃活動の中継	2022 年 10 月 13 日【講義】NPO 団体海の再生ネットワークよろん 池田氏
	
2022 年 10 月 13 日【集合写真】	2022 年 10 月 14 日【報告会】参加者によるプログラムでの学びの発表

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ アルゼンチン 専門学校生

プログラム構成や講義資料・内容がよかった上、質問に対してはとても親切に回答してくださりよく理解できました。

◆ パナマ 大学生

日本についての知識を深めながら、同窓生同士の関係を構築する良い取り組みだと思います。

◆ コスタリカ 大学生

非常に関心が高く重要なテーマであり、構成や時間管理がよくできていてとても良いプログラムだったと思います。バーチャルツアーで訪れたさまざまな場所を視察できて大変良かったです。電波の状態がよければより鮮明に綺麗に視聴できたと思います。

◆ ペルー その他

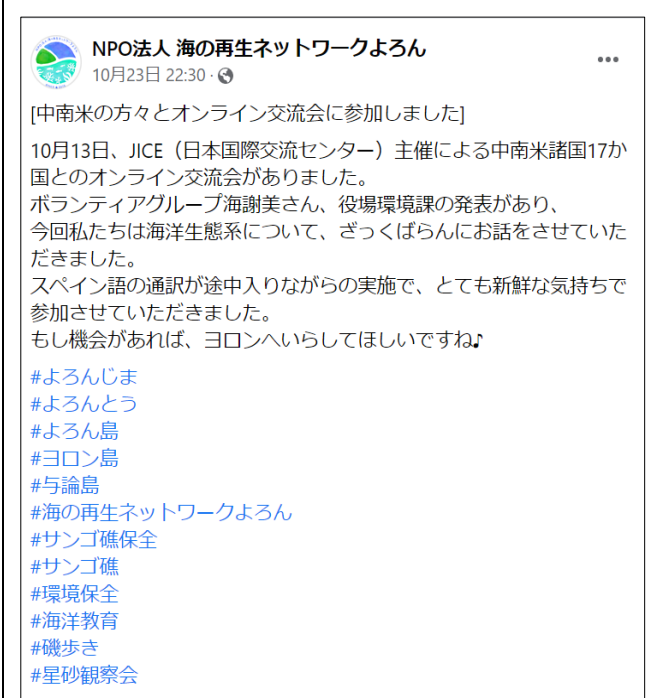
海洋保護というテーマは非常に興味深かったです。また、与論島について知ることができ、いつか実際に訪れてみたいと思っています。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

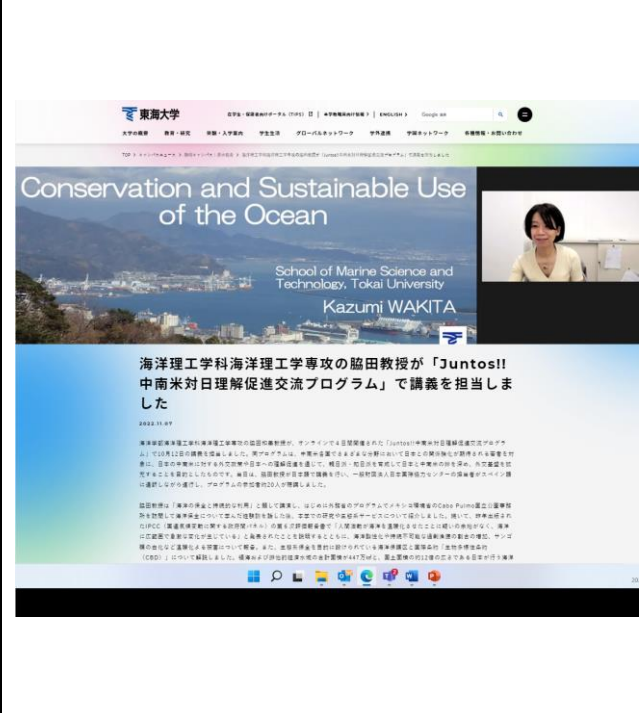
◆ 講師

参加者が熱心で、質疑応答にも十分時間をかけることができ、私自身もとても満足のいく内容となり、参加者からのコメントは自身にとっても勉強になりました。

5. 参加者の対外発信、報道事例等

	 NPO法人 海の再生ネットワークよろん 10月23日 22:30 [中南米の方々とオンライン交流会に参加しました] 10月13日、JICE（日本国際交流センター）主催による中南米諸国17か国とのオンライン交流会がありました。ボランティアグループ海謝美さん、役場環境課の発表があり、今回私たちは海洋生態系について、ざっくばらんにお話をさせていただきました。スペイン語の通訳が途中入りながらの実施で、とても新鮮な気持ちで参加させていただきました。もし機会があれば、ヨロンへいらしてほしいですね！ #よろんじま #よろんとう #よろん島 #ヨロン島 #与論島 #海の再生ネットワークよろん #サンゴ礁保全 #サンゴ礁 #環境保全 #海洋教育 #磯歩き #星砂観察会
--	---

2022年10月13日（参加者のブログ） 南米諸国との意見交換の様子

 Conservation and Sustainable Use of the Ocean School of Marine Science and Technology, Tokai University Kazumi WAKITA 海洋理工学科海洋理工学専攻の脇田教授が「Juntos!! 中南米対日理解促進交流プログラム」で講義を担当しました 2022.11.07 東京理科大学海洋理工学専攻の脇田教授が、サンパウロで開催された「Juntos!! 中南米対日理解促進交流プログラム」で10月12日の講義を担当しました。同プログラムは、中南米各国でさまざまな分野において日本との関係強化が期待される若者を対象に、日本の中南米に対する外交政策や日本への理解促進を通じて、親日派・知日派を育成して日本と中南米の絆を深め、外交基盤を拡充することを目的としたものです。当日は、脇田教授が日本語で講義を行い、一般財団法人日本国際協力	2022年10月13日（Facebook）協力団体 HP プログラムへの協力について掲載 2022年11月7日（東海大学ホームページ） 海洋理工学科海洋理工学専攻の脇田教授が「Juntos!! 中南米対日理解促進交流プログラム」で講義を担当しました。 海洋学部海洋理工学科海洋理工学専攻の脇田和義教授が、オンラインで4日間開催された「Juntos!! 中南米対日理解促進交流プログラム」で10月12日の講義を担当しました。同プログラムは、中南米各国でさまざまな分野において日本との関係強化が期待される若者を対象に、日本の中南米に対する外交政策や日本への理解促進を通じて、親日派・知日派を育成して日本と中南米の絆を深め、外交基盤を拡充することを目的としたものです。当日は、脇田教授が日本語で講義を行い、一般財団法人日本国際協力
---	---

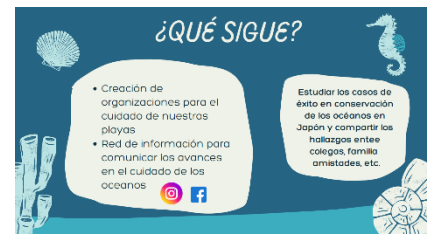
	センターの担当者がスペイン語に通訳しながら進行し、プログラムの参加者約 20 人が聴講しました。（後略）
--	--

6. 報告会での参加者の発表（抜粋）

グループ 1	
■ テーマ「海洋保全とその活動について」	
	Conocimientos previos o actividades relacionadas sobre "Conservación de los Océanos" Ninguno de los miembros contaba con conocimientos previos sobre el tema, pero nos parecía interesante y atractivo el tema. Aprendizajes sobre Japón durante el programa El cuidado que tienen sobre sus playas no solo pensando en el beneficio propio sino las repercusiones que tiene en diferentes partes del mundo. Conocimiento de la basura en el Pacífico. Tipos de residuos no orgánicos hay en Japón. Qué podemos hacer como grupo Aprovechar al máximo la red de contactos creada como ex participantes del programa "Juntos". Difundir lo aprendido en el programa para crear conciencia en las personas sobre el cuidado de los océanos. Unirnos a la recolección de desechos locales y aplicar en nuestras familias las 4 R: reducir el uso del plástico, reutilizar, reciclar y rehusar.
テーマに関する事前知識は皆無でしたが、常に興味深くかつ魅力的なテーマだと思いました。海洋ごみから海や浜辺を守る活動は、ただその現場の海岸を守るという目的だけではなく、世界各地への影響も含めて考えて活動すべきだということを学びました。今後は、このプログラムで学んだ内容を SNS やその他のコラムで発信し、海洋保護に関する意識の向上を目指すと同時に、プラスチックごみの 4R 活動（注 2）をまずは身近から実践していきたいと思います。 （注 2）4R 活動:リデュース（削減）・リユース（再利用）・リサイクル（再資源）・リフューズ（断る）	
グループ 2	
■ テーマ「海洋保全の問題に関する知識と経験」	
	 
テーマに関する事前知識としては、国際協力によるウミガメの保護活動や一般市民がボランティアとして参加する活動や調査の存在、マイクロプラスチックごみの海洋への影響などを知っている程度でした。今回のプログラムを通しては、海洋保護の（プラスの意味での）社会的影響、民間と政府の協働、エコシステムへの影響を学びました。今後は、海洋ほど関係の NGO などの活動へ参加したり、プラスチック製品の使用を控えたり、より健康的な生活へと意識を向けていきたいと思います。	

グループ 3

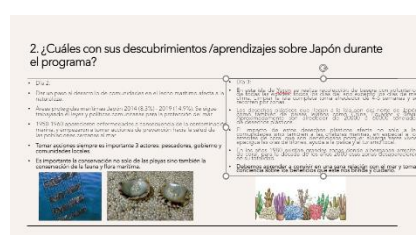
■ テーマ「プログラムに関する事前知識と発見及び学習、今後の取り組みについて」



テーマに関しては、海洋から収集できているプラスチックの量は非常に少ないということ、ほとんどの海洋保護関係の活動は民間団体が行っているということ、パナマではパナマ湾の環境改善運動が2012年から行われていること、官民様々な団体が海洋保護活動をしていることなどを、事前知識として持っていました。今回のプログラムを通して、日本では海洋保護に関して漁業従事者、NGO、政府など様々な立場の人が関係していること、海謝美のような様々な背景を持った人が参加するコミュニティーベースのビーチ清掃活動を行う団体があるということ、真珠養殖においても環境を配慮することを優先していることなどを学びました。今後は、SNSなどで保護活動の進捗について発信するとともに、日本の海洋保護関係の活動の成功事例についてより学び、友人や家族と共有していきたいと思います。

グループ 4

■ テーマ「日本の発見と学び、プログラムと通じての活動について」



テーマに関して、特に夏にマスコミを通して人間が出すゴミによる汚染についての情報や使い捨て食器の使用を控えるよう注意を促したり、海岸清掃活動のボランティア活動が行われていることは知っていました。また、アルゼンチンでは特にパタゴニアの海洋保護に関する定例会が行われており、エクアドルでも海洋保護に関する意識向上のための Mingas というプログラムがあることも事前知識がありました。今回のプログラムを通じて、日本では海の保護に関する法律が整備されてきており保護された海洋地域の面積も増加していること、海洋保護に関する活動を行うには常に漁業従事者、行政府、コミュニティーの三者が大切であるということ、ビーチの保護だけでなく海洋生態系の保護も大切だということ、与論島での清掃活動、与論島へ流れつく海洋ごみは日本北部からだけでなく世界のさまざまな国からも漂着するということが、私たち人間は海洋資源からさまざまな利益を享受していることをより認識しその海との健全な関係性を作るべきだということなどを学んだ。今後は、SNSなどで海を保護することの大切さ、海洋ごみとその清掃についての意識を持つべきだということなどを発信していきたいです。また、各国の海洋保護に関する政策を支持することで支援していきたいと思います。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）